

展示資料リスト

資料名	年代	寄贈者
宝船図袱紗	大正 12 年 (1923)	市田俊介氏
疋田絞蒲団地	大正 12 年 (1923)	市田俊介氏
苗字書	明治 20 年 (1887)	大川尚美氏
名書	明治 20 年 (1887)	大川尚美氏
軍服	明治 30 年代	河崎晋也氏
軍隊手帳	明治時代	河崎晋也氏
女学生制服	大正時代	河崎晋也氏
大谷女学校卒業アルバム	明治末～大正初期	河崎晋也氏
旧河崎家住宅棟札	昭和 11 年 (1936)	河崎晋也氏
旧河崎家住宅幣串	昭和 11 年 (1936)	河崎晋也氏
染織見本帖	大正～昭和初期	河崎晋也氏
大坂金剛院歓道宛令旨	江戸時代後期	高津豊氏
聖護院宮御令旨箱	江戸時代後期	高津豊氏
岩に菊図 鶴亭画 五井蘭洲賛	江戸時代中期	小岸昌弘氏
溪山雪霽図 鼎金城筆	江戸時代後期	小岸昌弘氏
梅に羊歯文堤重	江戸時代後期～大正時代	小岸昌弘氏
市松人形 鷺谷瑠璃若	大正末～昭和初期	塩野テルミ氏
紫綬褒章 賜鷺谷陸平	昭和 41 年 (1966)	塩野テルミ氏
SP レコード 大大阪地下鉄行進曲 ／大大阪地下鉄小唄	昭和 8 年 (1933)	野村維男氏
箱枕	明治時代～大正時代	林綾子氏
猿図 鎌田巖松	江戸時代後期	
陳献章漢詩 田結莊千里	江戸時代末～明治時代	
正慶尼図扇面 富岡鉄斎	明治時代	

特集展示 新収品お披露目展

会 期：令和 7 年 6 月 25 日（水）～ 9 月 1 日（月）
会 場：大阪歴史博物館 8 階 特集展示室（常設展示場内）
展示担当：豆谷浩之
開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時
※入館は閉館の 30 分前まで
休 館 日：毎週火曜日
※8 月 12 日（火）は開館
観 覧 料：常設展示観覧料でご覧になれます。
大人 600 円（540 円）
高校生・大学生 400 円（360 円）
※（ ）内は 20 名以上の団体割引料金
※中学生以下・大阪市内在住の 65 歳以上（要証明証提示）の方、
障がい者手帳等をお持ちの方（介護者 1 名を含む）は無料



Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅 ②・⑨号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前



染織見本帖

特集展示
新収品◎お披露目展
NEW COLLECTION

2025 6/25wed → 9/1mon



聖護院宮御令旨箱と
大坂金剛院歓道宛令旨

梅に羊歯文堤重

火曜日休館

ただし 8 月 12 日（火）は開館

8階 特集展示室

観覧料 ― 常設展示観覧料でご覧になれます。

大人 600 円（540 円）／高校生・大学生 400 円（360 円） ※（ ）内は 20 名以上の団体料金
※中学生以下、大阪市内在住の 65 歳以上の方（要証明証提示）、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者 1 名を含む）は無料

会場:大阪歴史博物館 8階 特集展示室(常設展示場内) 開館時間:午前9時30分～午後5時 ※入館は閉館30分前まで
アクセス:Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②号・⑨号出口大阪シティバス「馬場町」バス停前

大阪歴史博物館では開館以来、大阪を中心とする地域の歴史と文化を広く市民に紹介、理解を深めていただくことを事業運営の基本方針としています。この基本方針に沿った資料の収集は博物館活動の根幹でもあり、当館では毎年、市民の皆様からご寄贈いただいたさまざまな資料を保管し、研究や展示等に活用しています。

今回の展示では、令和6年度に新たに館蔵品となった多くのご寄贈品のなかから、代表的な資料を紹介します。

主な展示資料（すべて大阪歴史博物館蔵）



しょうごいんのみやごりょうじ ばこ 聖護院宮御令旨箱と大坂金剛院歓道宛令旨 江戸時代後期 高津豊氏寄贈

高津氏寄贈資料は、南瓦屋町四丁目（現大阪市中央区瓦屋町）にあった聖護院御用所にかかわる古文書が多数を占めます。本山派修験の総本山である聖護院は、安政6年（1859）、大峯山奥駈道の諸堂社修復費用を調達する拠点として大坂に御用所を設けました。御用所が置かれていた家屋敷の持ち主である高津屋安之助は、自身もかぞえて13歳という若さで修験となり金剛院歓道と名乗り、大坂市中に居住する修験の組頭を勤め、大坂とその周辺で活動する修験や講の申請を取り次ぎました。写真の資料は、聖護院宮からの通達とそれを収めた箱ですが、修験の大坂での活動を知りうる貴重な資料群です。



しだもんまきえさげじゅう 梅に羊歯文蒔絵提重 江戸時代後期～大正時代 小岸昌弘氏寄贈

提重は、戸外での宴席に用いる携帯用の重箱です。蒔絵で梅花と羊歯の文様を施し、重箱、銘々皿、脚付膳、酒筒を収めます。梅・羊歯は、ともに春を寿ぐ瑞祥の草花であり、寄贈者の祖母、もしくはその上の代の者が花見で使用していたものといえます。花見の源流はハルゴト（田植え前にサクラを囲み供食する年中行事）であり、当時の花見のあり方をいまに伝えるものともいえます。



せんしよくみほんちよう 染織見本帖 大正～昭和初期 河崎晋也氏寄贈

日本製の裂見本とオランダのHELMOND社他で1927年以前に製作された裂見本で、合計98冊の中に700点を超える見本裂が綴り込まれています。ほとんどが木綿布への捺染プリントで、木綿布を多用するアジア地域向けの輸出裂見本であった可能性が高いものです。写真の部分は、もとは男児の祝着などのためのデザインだったのでしょうか、兜や印籠などがプリントされています。

※会期中に、同じ絵柄の色違いの部分に入れ替える場合があります。



軍服 明治30年代 河崎晋也氏寄贈

大阪で洋反物商を営んだ河崎經吉が、日露戦争時に着用したと思われる軍服です。經吉の軍隊手帳によると、明治37年（1904）8月に後備砲兵として日露戦争に従軍し、翌年11月に復員しています。軍服が入っていたトランクには、「征露二年」と記された布があり、これは、日露戦争が二年目を迎えた明治38年（1905）に私年号として用いられた年号です。

